

# サワラ

## 生態的特徴等

【生態】体に多くの暗色班があり、体高が低く細長で、腹鰭が小さい。頭部が小さく、口が大きく、歯が鋭い。体内には浮力を調整する鰾がない。

1歳魚で一部から半数が、2才魚以上では大部分が成熟し、東シナ海では5～6月に、瀬戸内海では5～7月に産卵する。強い魚食性をもち、魚類の仔稚魚、成魚等を捕食する。成長は速やかで、満1歳で約40cm、2歳で60cm前後、3歳で60cmを超える。寿命は6～8歳で雌の方が長寿とされており、全長1mを超える。

【漁法と盛漁期】太平洋北部(北海道～茨城県)の盛漁期は7～12月で、定置網のほか、延縄等で漁獲される。本県の盛漁期も7～12月で、定置網のほか、曳釣りで漁獲され、久慈地区の水揚げが多い。

【利用】捨てるところがないと言われており、刺身や焼き等で食される。小型のものはサゴシ(チ)と呼ばれ、全般に脂はのっていない。

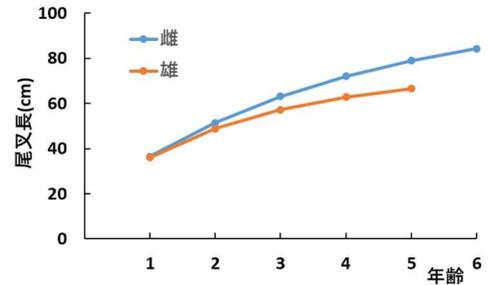


図1 サワラの成長

## 近年の来遊資源は低位・減少

(漁獲量) サワラは漁獲の年・月変動の大きい魚種であり、漁獲量は本県沿岸への来遊動向に大きく左右される。過去には70トン近く獲れた年もあったが、近年は10～50トン程度で推移している(図2)。

(水準と動向) 国の資源評価によると太平洋北部(青森県～茨城県)で漁獲量の多い岩手県と宮城県の1994(H6)～2022(R4)年の合計漁獲量を用いて、平均値よりも30%以上多い場合を高位、30%以上低い場合を低位水準と規定し、2022年の合計漁獲量が124トンで平均値の34%に相当することから、水準は「低位」、直近5年間(2020～2024年)の茨城県の漁獲量の推移より、動向は「減少」と判断している(図3)。

水準



(国)

動向

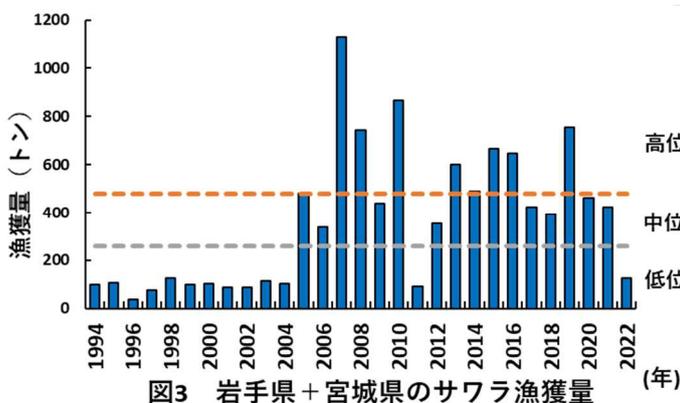


図3 岩手県+宮城県のサワラ漁獲量

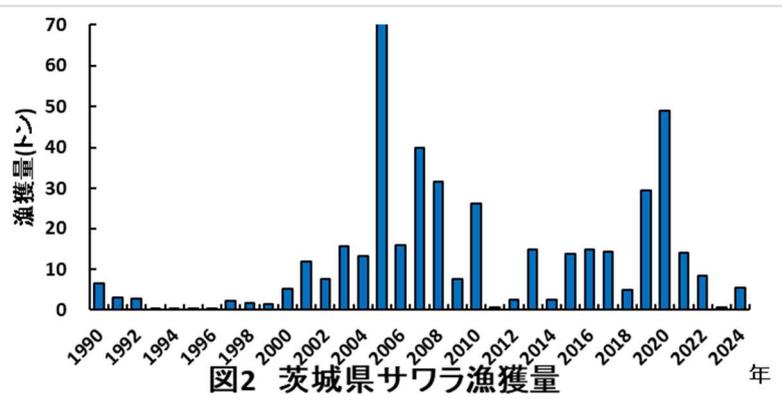


図2 茨城県サワラ漁獲量

## 【全国の漁獲動向】

・茨城県の漁獲量は5トンで、1位は福井県、2位は京都府、3位は島根県。(R5 漁業・養殖業生産統計)

評価期間：平成4年1月～令和5年12月 更新日：令和7年3月25日

引用：岸田達ほか(1985)・濱崎清一(1993)・Shoji.Jほか(1997)・竹森弘征(2006)・井上太郎ほか(2007)・令和5(2023)年度サワラ資源評価調査報告書。我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産研究・教育機構、東京、